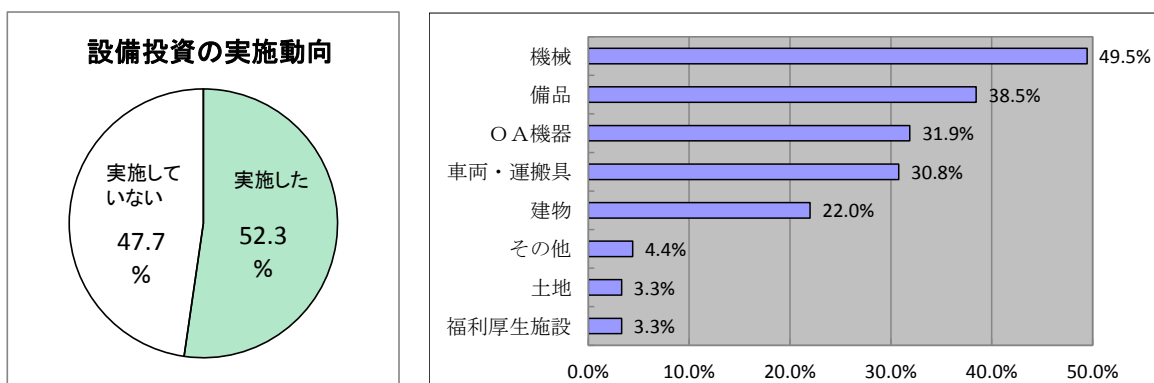


■付帯調査：設備投資動向調査結果（平成29年上期・平成29年下期）

製造業が牽引し依然として高水準を維持 実施企業は5割超、投資意欲は強い

- 今年上期（平成29年1～6月）において、「設備投資を実施した企業」は全業種では52.3%となり、過半数を超えた。業種別では、製造業が最も高く67.2%、以下、サービス業51.4%、小売・卸売業39.4%、建設業37.8%となった。
- 「設備投資を実施した企業」に投資した内容（複数回答）を聞いたところ、全業種では「機械」が49.5%で最も多く、以下、「備品」38.5%、「OA機器」31.9%、「車両・運搬具」30.8%と続いた。中でも、製造業では「機械」が66.7%と高い割合となった。
- 一方、今年下期（平成29年7～12月）において、「設備投資を計画している企業」は全業種で56.5%と、昨年下期の実施動向（47.8%）を8.7ポイント上回る結果となった。業種別では、製造業が最も高く70.1%、以下、サービス業56.4%、小売・卸売業43.8%、建設業43.6%となった。
- 「設備投資を計画している企業」にその投資する内容（複数回答）を聞いたところ、全業種では「機械」が46.0%で最も多く、以下、「車両・運搬具」32.0%、「備品」30.0%、「建物」30.0%と続いた。中でも、製造業では「機械」が実施動向と同様に66.0%と高い割合となった。
- 前回調査における設備投資計画（平成29年1～6月）が47.7%であったのに対し、実施結果は、52.3%と4.6ポイント上回った。
- 長期的に抑制していた投資行動は、近年、景気の回復傾向を背景に引き続き活発化している。特に製造業における設備投資意欲が高く、また投資内容においては、「機械」、「車両・運搬具」に加え、今回の投資計画で「建物」が上位に入るなど、比較的金額の大きい投資計画が増えている。景気の先行き不透明で慎重論もあるが、今回も依然として高水準を維持する結果となった。

（1）平成29年上期（平成29年1～6月）の設備投資実施動向（全業種）



（2）平成29年下期（平成29年7～12月）の設備投資計画動向（全業種）

